事例No.	2808
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	小豆島・迷路のまちアートプロジェクトMeiPAM

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

取壊し寸前の蔵の改修から始まった“まち磨き”と“現代の妖怪”による地域再生の取り組み

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



取壊し寸前の蔵の改修から始まった“まち磨き”と“現代の妖怪”による地域再生の取り組み

小豆島（しょうどしま）・迷路（めいろ）のまち アートプロジェクトMeiPAM（めいぱむ）

DATA

事　例　名：小豆島･迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM
所　在　地：香川県小豆郡土庄町甲398
連　絡　先：TEL 0879-62-0221
FAX 0879-62-8501
E-mail mail@meipam.net
ホームページ：https://meipam.net/

取り組みの概要

過疎化の進む離島･小豆島のかつての商店街を復活させようと、地元オリーブの会社が一念発起。アートを主軸とした観光事業に10年以上取り組んでいる。特に2018年に開館した妖怪美術館はインバウンド観光の呼び水となり、地元観光エリア（迷路のまち）の賑わいを創出。移住のきっかけや地元商店への刺激にもなっている。年間1 ～ 2万人だった観光客数はコロナ前で5倍の10万人に増加。コロナ後も積極的なメディア露出による観光PRで地域振興に寄与している。

評価された点

●「妖怪」を題材に地域全体で街を盛り上げている点を評価。

●「妖怪」をコンセプトにアートのまち小豆島としての観光誘致を自走して取り組んでおり、観光客数5倍の効果をもたらしている。今後のインバウンド増加も期待でき、発展性も見込める点を評価。

●世界中から“妖怪の造形（フィギュア）”を集めていたことが、世界唯一の資産である。古民家を渡り歩きついでに商店街にも寄れる仕組みになっており、商店街の活性化につながっている。地域の雰囲気をうまく生かしながら「瀬戸内国際芸術祭」とも差別化を図り、新たな観光拠点が形成されている事例である。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　2010年～
・商店街の活気を取り戻すため、オリーブ会社創業者がプロジェクトをスタート。

・島の人口はピーク時の約半数(3万人)、土庄本町エリアは約半数が空き家。
・事業のお手本は直島の「家プロジェクト」。

2011年～

古民家再生アートPJ始動
・呉服店の蔵など3館をギャラリーに改修して現代アートを展示。
・国内外のアーティストを招聘して滞在制作を支援。




・瀬戸内国際芸術祭がスタート。盛上げに寄与すべく活動をリンクさせる。

2013年～

瀬戸内国際芸術祭 公式コーディネーター
・地域とアーティストや実行委員会との橋渡しを担う。




・事業の一環で開催してきたコンテスト「妖怪造形大賞」の作品数が800点を超える。

2018年～

「妖怪美術館」開館
・テーマを「現代の妖怪」に転換。妖怪画家・柳生忠平が館長に就任。インバウンド観光を主軸とした戦略でカフェ、レストラン、土産物店など計7店舗を展開。



・第5回は台中市政府観光旅游局の後援。第6回は文化庁、香川県の後援。

・地域への観光客数が約5倍に増加。

2019年～

地域への観光客数が約5倍に増加
・1～2万人だった観光客数が10万人に増加。
・折り鶴アート美術館も開館。



・コロナ禍で観光に打撃。

2020年～

事業の再構築
・オンライン施策強化で、SNSフォロワー 1万人増加。エリアへの資本流入・移住を推進。文化を生み出す地域事業へ。

今後の展望
・「妖怪(YOKAI)を世界へ」寛容な精神性を伝える妖怪文化を世界に発信。インバウンド観光推進で地域の課題解決へ。

受賞者のコメント

「心と体と絆の健康を追求して瀬戸内・小豆島の発展に寄与する」(母体である小豆島ヘルシーランド株式会社の社是)をモットーに“まち磨き”や“島磨き”を始めた創業者・柳生好彦や、妖怪美術館の館長でありプロジェクトの中心である妖怪画家・柳生忠平をはじめ、プロジェクトに携わった人々の努力が、このような栄えある賞によって評価されたことを大変光栄に存じます。今後もさまざまな取り組みにチャレンジしてまいります。